

# 課外授業講師派遣制度、順調に始まる

平成13年度から始まった課外授業講師派遣制度は今年度も順調にスタートした。県内各学校から注目を集め、既に多くのご要望をいただいております。益々の活躍が期待される。

## 南砺総合高校福野高校

今年度第1回目となる課外授業が、5月10日(水)、南砺総合高校福野高校において開催され、後藤 渉氏(大和証券(株)富山支店長)が2年生26名を前に、「社会が求める人材」と題して講演した。講演では、「社会人は誰でもなれるが、プロ意識を持った『会社人』になってもらいたい」と強調。

また、社会が求める人材像として、「資格を持っている人と話をすると、その資格で何をやるかということを考えている人は少ない、常に目的意識を持って目標を立てることが大切であると」と説いた。生徒らも授業で株式の模擬取引を行っており、プロの証券マンの話に真剣な表情で聴き入っていた。



今は「土台」づくりが大切と話す後藤氏

## PTA並びに教育振興会総会で講師を務める

5月13日(土)、富山県立大沢野工業高等学校からの依頼により、PTA並びに教育振興会の総会において、保護者並びに教職員約60名を前に「企業として高卒就職者に求められること」と題して、寺本龍昭氏(株)富士産工代表取締役社長)が講演した。

講演では、大学卒業後に(株)不二越に入社したが、その数年後に自分で会社を立ち上げることとなった経緯や、今日までの約40年間の軌跡をエピソードを交えながら紹介した。そして社会人として重要なことは、「良い人間関係を作ること」、「自己表現をしっかりすること」、「物事を冷静に判断すること」、「心を磨くこと」であると強く訴えた。



「社会人の資質として求められること」を訴える寺本氏

## 平成18年度 富山県西部・富山県東部教育事務所小・中養護学校長研修会で講師を務める

4月11日(火)、富山県西部教育事務所からの依頼により、ウィング・ウィング高岡のホールで行われた小・中養護学校長研修会において、学校長など約180名を前に「先用後利 先憂後楽」と題して、松原吉隆氏(大同産業(株)代表取締役社長)が講演した。講演では、先用後利(give and take)の精神のもと、品質・価格・納期・サービス・違いを重視した自らの経営姿勢を紹介しながら、21世紀に求められる社員(教職)像を説いた。個性とは持って生まれたものではなく、感性・センスを磨いたもの、磨いてこそ個性と強調した。



小・中学校は人格をつくる大切な場と訴える松原氏

4月11日(火)、富山県東部教育事務所からの依頼により、水橋ふるさと会館で行われた小・中・養護学校長研修会において、学校長など約200名を前に「高田の瓶屋が薬屋になるまでの半世紀」と題して、高田順一氏(阪神化成工業(株)代表取締役社長)が講演した。講演では、容器製造メーカーから、医薬・医療分野への進出を果たすまでの、半世紀にわたる時代の軌跡をたどりながら、自分の志を高く持つことによって、人は共感し、協力してくれたことを紹介した。こうした経験を踏まえ、「はい、喜んで」の気持ちで、自身の「容器(うつわ)」を大きくしたいと締めくくった。



「はい、喜んで」の気持ちで人と接していると話す高田氏

# 課外授業講師派遣制度

県内各地の小・中・高等学校で開催

平成18年度の課外授業講師派遣事業は、6月から7月までの間、6回にわたり講師10名を派遣した結果本年度の派遣回数・人数は早くも延べ7回11人となり大変ご好評をいただいている。

## 滑川市立田中小学校

今年度第2回目の課外授業は6月14日(水)、滑川市立田中小学校において行われ、山瀬孝(株)ジェック経営コンサルタント代表取締役社長が、6年生生徒60名と保護者を前に、「あいさつの大切さを学ぼう」と題して講演した。

山瀬社長は、「元気のいいあいさつは、相手に信頼感を与える第一歩」と述べ、自社でも社員を厳しく指導していることを紹介。「あいさつがしっかりしている会社は仕事を頼んでみよう」という気にさせる。中学、高校に進んでもあいさつを大切にしてほしい」と呼び掛けた。



心を込めたあいさつが大切と話す山瀬氏

## 富山市立大沢野中学校

今年度第3回目の課外授業は6月16日(金)、富山市立大沢野中学校において行われ、林健吾(株)サンショウ代表取締役社長が、3年生生徒224名を前に、「社会が求める能力と人間像」と題して講演した。

林社長は十年前から、他店との競争に打ち勝つため「食からの健康」をコンセプトとし、化学物質を含まない商品などを販売していることを紹介。社会が求める人材として、時代の先を読むことや「ハイ」と素直に聞く態度などをあげた。「中学時代は土台づくりのため、がむしゃらに勉強してほしい」と呼び掛けた。



感性を磨くことが大切と話す林氏

## 富山県立福岡高等学校

今年度第4回目の課外授業は6月20日(火)、富山県立福岡高等学校において行われ、伊丹亘みずほ信託銀行(株)富山支店長が、1年生生徒160名を前に、「転職の多い職業とその楽しみ方」と題して講演した。

伊丹支店長は、外為ディーラーの仕事ぶりを紹介し、与えられた仕事に一生懸命に取り組むことの大切さを強調。また、海外勤務の経験のなかで「自分の国(日本)の一般教養を身につけておくと、現地の人たちとも交流しやすい」と様々なことに興味を持つよう生徒に呼びかけた。

「言葉が通じなくても外国へ行くことをためらう必要はない」と自分の経験を踏まえ、生徒に国際人としてのあり方を説いた。



機会があればやってみることが大切と語る伊丹氏

## 南砺市立福光中学校

今年度第5回目の課外授業は6月27日(火)、南砺市立福光中学校において行われ、吉岡隆一郎(株)文苑堂書店代表取締役社長が、3年生生徒97名を前に、「豊かに生きる」と題して講演した。

吉岡社長は、生き立ちや学生時代の思い出などを話題に、豊かに生きることのキーワードとして、「明るい気持ちを持つこと」をあげ、人間的に成長するためには、憎しみやねたみを避けるよう生徒に呼び掛けた。また、「豊かに生きる」とは、お金をたくさん持っていることではない。努力を惜しまず、自分の能力を発揮してこそ幸せに生きることができる」と訴えた。最後に、これまでの経験を踏まえ、「一番強い者が生き残れるのではなく、社会に適応した者が生き残る」と適者生存を生徒に説いた。



目標は紙に書くことが大切と話す吉岡氏

## 砺波市立庄西中学校

今年度第6回目の課外授業は7月11日(火)、砺波市立庄西中学校において行われ、永野健司日興コーディアル証券㈱富山支店長、釣谷宏行シーケー金属㈱代表取締役社長、野村幸司日本銀行富山事務所長が、3年生生徒(108名)を前に、クラス別に講演を行った。

永野支店長は「これからの日本の産業が抱える問題を解決するには」と題して講演した。日本は機械産業、特に「機械を作るた



自分の価値観を大切に話す永野氏  
「機械を作るための機械」の輸出で世界に冠たる地位を築いているが、資源に乏しい。農林水産業等にも若い人材が必要であり、工夫次第で成功すると強調した。



釣谷社長は「これからの国際社会に必要なこと」と題して講演した。中国進出のエピソードや苦勞話を交えて、社会は世界中でつながっていることを各人が自覚することであると説いた。また、アジアの国々と連携してビジネスを進めるためには、その国の商慣習を十分に理解しておくことが必要であると強調した。

野村事務所長は、「日本経済の今と将来」と題し、日本銀行の仕事内容やお金の役割、日本経済の仕組みなどを説明。そして、



お金は楽しく使うことが大切と話す野村氏  
将来の人口減少社会に対応するため、今のモノ作りニッポンの技術力に磨きをかけること、環境対策やリサイクルを推進して脱石油・省エネ社会を築くこと、得意な分野を尊重して周辺諸国と共存することが大切と強調した。

生徒たちは講演の中で、模擬1億円の固まりを代わる代わる持ち、その重さに驚いていた。

## 舟橋村立舟橋中学校

今年度第7回目の課外授業は7月13日(木)、舟橋村立舟橋中学校で行われた。同校での課外授業は、制度開始以来6年度連続での実施となった。当日は特別授業「人生の先輩に聴く」をテーマに、当会から3名の講師を派遣した。

1年生(37名)は、萩原正剛氏(㈱スリー・ティ代表取締役会長)が担当し、「自分の歩んだ道と趣味」と題して授業を行っ



故郷の良さを知ることが大切と話す萩原氏  
た。人生は好き嫌いとは損得で物事が決まっているが、大切なことは「正しいこと」を見極めることと説いた。



自然の大切さを語る中曽氏

2年生(43名)は、中曽修一氏(新湊かまぼこ㈱代表取締役)が担当し、「感性と挑戦で人生を楽しく」と題して授業を行った。

社長就任後に挑戦した新商品「薬膳蒲鉾」の開発の過程など、今日までの挑戦の軌跡を、さまざまな角度から紹介するとともに、今後「自然との共生」がいかに大切になるかを強調した。

3年生(34名)は、当会代表幹事 中尾哲雄氏(㈱インテック代表取締役会長)が担当し、「思い出」と題して授業を行っ



夢が人を輝かせ、希望は人を大きくすると語る中尾氏

魚津に疎開する際、見ず知らずの人からおにぎりをもたらした思い出を披露し、みんな社会のお世話になっている、それが自分の原点と振り返り、お世話になった人への感謝を忘れないで、夢や理念を持って勉強に励んでほしいと願いを込めた。

# 黒部市立鷹施中学校で課外授業を実施

9月21日(木)、金山 宏明氏(カナヤママシナリー(株)代表取締役社長)が、黒部市鷹施中学校において、2年生74名を前に「付加価値の創造 ~夢の実現に向けて~」と題して今年度8回目となる課外授業を行った。

金山社長は、自社の企業理念などを説明後、福祉機器事業では、床ずれなどに悩むお年寄りを助けたいと考え、長時間座り続けられる車いすを開発したエピソードなどを紹介。「気配り、目配りをするすることで、困っている人を助け、付加価値をつけることができる」と述べた。さらに、「正しい夢をもつことが大切。「正」とは、一が止まると書くが、一つのことに向かって頑張るといことが、正しい夢につながる」と語りかけた。



人への気配りを学んでほしいと説く金山社長

# 課外授業講師派遣制度好評を博す

県内各学校からの要望により、10月から11月までの間5回にわたって講師7名を派遣した結果、本年度の派遣回数・人数は延べ13回・19人となった。当会会員派遣講師に寄せられる学校側の期待も高まっている。

## 富山県立魚津高等学校

10月7日(土)、牧田 和樹氏(㈱牧田組 代表取締役社長)が、富山県立魚津高校において、2年生240名を前に「人として、人間として、- 中尾代表幹事に学んだこと - 」と題して今年度9回目となる課外授業を行った。

牧田社長は、異性との付き合い方を例に、「人と人との関係を良好に保つためには、相手のことを思いやる心を持つことが大



知識と経験のバランスが大切と説く  
牧田氏

切である」と説いた。さらに、「知識と経験がかけ合わさって知恵が生まれる、知識が0でも経験が0でも知恵は身につかない、社会では『知恵の法則』が重要である」と語りかけた。最後に、「自分の知恵を人のために活かすことの大切さを、皆さんの先輩でもある当会中尾代表幹事から学んだ」と締めくくった。

## 富山県立高岡工芸高等学校

11月13日(月)、山崎 義明氏(㈱山崎製作所 代表取締役社長)が、富山県立高岡工芸高校において、2年生194名を前に「働く意義」と題して、今年度10回目となる課外授業を行った。

山崎社長は、今年夏の甲子園で活躍した早実の斉藤投手、駒大苫小牧の田中投手の進路選択を例にあげ、「自分がしたいと思うことを早く自

分のものにする  
こと」の大切さを説明するとともに、「会社が求める人材像は、マニュアルにとられず、



プロは自分の全存在をかけるものと話す山崎氏

コツと目標に向かう人」と説いた。最後に、「仕事を『働かされている』ととらえるのではなく、自分の個性を発揮する場と考えてほしい」と訴え、「自分の進む道を決断するため、今の時期に大いに悩んでほしい」とエールを送った。

## 富山市立和合中学校

11月22日(水)、横山 哲夫氏(北日本放送㈱ 代表取締役社長)が、富山市立和合中学校において、3年生115名を前に「夢と挑戦 - 放送デジタル化に思う - 」と題して、今年度11回目となる課外授業を行った。

横山社長は、自社が取り組んできた放送デジタル化に至るまでの経緯を例にあげ、夢を持ち、挑戦することの大切さを説明。



夢をもち挑戦することが大切と話す  
横山氏

また、「夢を実現するためには、ナンバーワンよりオンリーワン、競争ではなく独自性を重視した、『脱横並び』の意識が必要である」と述べた。最後に、「何度も何度もテストを繰り返すことにより、自信が生まれてくる。困難の中でも前向きにチャンスを見出してもらいたい」と締めくくった。

## 富山県立小杉高等学校

11月24日(金)、金森 米男氏(金森産業㈱ 取締役社長)が、富山県立小杉高校において、3年生158名を前に「社会のなかで生きる」と題して、今年度12回目となる課外授業を行った。

金森社長は、「人には与えられた時間がある。その時間を有効に利用することが大切。生活を充実させるためにも、一生



教養を身につけるための勉強が大切と話す金森氏

涯、勉強してほしい」と説いたうえで、「社会での勉強は『絶対評価』が基本。学校の相対評価と異なり、頑張れば報われる」と述べた。また、「社会では、いろいろな人、物を観察して、人への気遣いや人との良い縁を大切にすることが大事」とアドバイスを送った。

## 富山市立堀川中学校

11月30日(木)、中尾 哲雄氏(㈱インテックホールディングス 代表取締役会長兼社長)、稲葉 実氏(㈱三四五建築研究所 代表取締役)、本田百合子氏(本田会計事務所 代表)の三氏が、富山市立堀川中学校において、2年生308名を対象に、今年度13回目となる課外授業を行った。

中尾会長は、「夢をもとう」と題して、自身のこれまでの経験を振り返り、「まず夢を持つこと、それを実現するための理念



夢を持つことの大切さを話す中尾氏

や目標を「書いて、実行すること」を説いた。また、現在「本を書きたい」という夢を持っていることを披露し、「夢が人を輝かせ、希望は人を大きくする」と生徒たちを激励した。

稲葉社長は、「一隅を照らすということについて」と題して、建物を建築する際には、いろいろな分野の職人が力を合わせて協働作業を行っていることを例に挙げ、目的を一つに相互を尊重しあうことの大切さを説いた。さらには、「雑草という草はない、仲間意識を持って、すべての人が社会の一員であることを自覚してもらいたい」と締めくくった。



仲間の大切さを説く稲葉氏

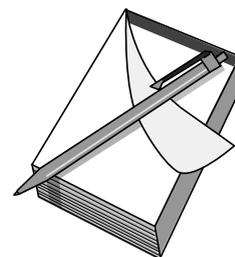
が力を合わせて協働作業を行っていることを例に挙げ、目的を一つに相互を尊重しあうことの大切さを説いた。さらには、「雑草という草はない、仲間意識を持って、すべての人が社会の一員であることを自覚してもらいたい」と締めくくった。

本田代表は、「感謝の心で...」と題して、感謝の心を忘れず、一分一秒を大事にと訴えた。また、「挫折こそ人生の肥やし」と説き、自らの体験を紹介しながら、「自分の人生以外は選べないのだから、決断する時は真剣に選ばないと後悔



感謝の気持ちを忘れずにと話す本田氏

する」と強調。最後に、正月に家族みんなで書く「自分の未来・予定・計画」を配布して講演を締めくくった。



# 富山市立城山中学校で課外授業を実施

2月2日、翠田 章男氏(株)トンボ飲料代表取締役社長)が、富山市立城山中学校において、全学年376名を前に「自らの主(あるじ)になること」と題して今年度14回目となる課外授業を行った。翠田社長は、中学時代、常に不安や戸惑いを感じていたことを振り返りながら、「誰のせいではなく自分の責任で物事をとらえることで心にやすらぎを感じるようになった」ことを紹介。変えられるのは「自分と未来」であることを強調した。

また、自分がどんな人間になりたいかを明確にしておくことで、新たな不安や不満を抑えられと説き、「理想像を紙に書いてみる」ことを呼び掛けた。終わりに、「何かを準備している人

とそうでない人の差は大きい」確固たる道しるべを持ち「一歩」を踏み出すことの大切さを訴えた。



自分は「運がいい」と思ってほしいと説く翠田社長